

学習指導要領・解説書における「新聞」に関連する記述

(「解説」部分は一部抜粋)

◆小学校

【国語】

○3年、4年「B 書くこと」

目標→相手や目的に応じ調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

内容→②言語活動例

イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、**学級新聞**などに表したりする。

解説→「疑問に思ったことを調べ」るとは、例えば、自分の経験したことの中から不思議に思ったことや、身の回りの事柄や学習した事柄について疑問に思っていることなどを調べることである。調べた結果を友達に説明するなど、書く相手や目的を明確にもつことのできる場面の設定が必要となる。設定した相手、目的や場面に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを様々に工夫することになる。報告する文章や**学級新聞**などの特徴に基づいて書くことが必要となる。**学級新聞**では、複数の種類の文章を集めて編集し、見出しを付けたり記事を書いたり、割り付けをすることになる。

○5年、6年「B 書くこと」

目標→目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

内容→②言語活動例

イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする。

解説→「書いたり編集したりする」こととは、一つの文章を書くことに加え、複数の文章を一定の目的の基に組み合わせて表現することである。例えば、意見や活動の報告文集、本や**新聞**、リーフレットやパンフレットなどを編集することなどが考えられる。その際、目的や意図に応じた編集として章立てや節などを工夫するとともに、題名や前書き、目次、後書き、奥付などを付け、実際の本や**新聞**、雑誌などの編集に合わせるようにすることが大切である。

○5年、6年「C 読むこと」

目標→目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

内容→①指導事項

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する。

解説→高学年になると、調べる学習の資料を集めたり、同じ作者や課題について数多くの作品を読んだりするなど読む目的も多様化し、調べる範囲も学校図書館から地域の公共図書館や資料館などへと広がる。更には、本を中心とした資料から**新聞**や雑誌、インターネットなど様々なメディアへと、その活用や情報収集の範囲も広がっていく。それに応じて、本や文章の読み方を広げていく必要がある。「効果的な読み方」には比べ読みのほか、速読、本や文章全体を概観しながら拾い読みする摘読などがある。

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

解説→「本や文章を読んで考えたことを発表し合い」とは、文学的な本や文章、説明的な本や文章など多様な本や文章を読み、目的に応じて報告や意見、解説や**新聞**の記事、推薦などの文章として考えをまとめ発表し合うことである。感想文集などにまとめたり、読書発表会などをしたりする言語活動に結び付けて考えることが大切である。共通の課題、又は一人一人に応じた課題で学習し、それぞれ考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら「自分の考えを広げたり深めたりする」ことにつながることが重要である。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

解説→高学年になると、児童の興味・関心が多様になり、一冊の本や一編の文章では、課題を解決しにくいこともある。そこで、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで」読むことが必要となる。適切な本や文章を選ぶために、学校図書館やインターネットなどの利用に関する知識、情報モラルなどを身に付けさせることが求められる。実際に読書を日常的に行う生活をつくっていくために、本に限らず**新聞**や雑誌、パンフレット、インターネットのホームページなど、様々な資料を活用できるよう工夫する。

内容→②言語活動例

イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する。

解説→「意見を述べた文章や解説の文章など」には、本以外では**新聞**、雑誌、地域の情報誌などに掲載された意見、**論説**、**報道**、解説などの文章がある。また、テレビ・ラジオなどの番組で取り上げられる意見や解説など音声や映像を利用することも考えられる。意見や解説の文章は、書き手の立場や考え方が強く反映しているのでそれらに注意して読み、自分との相違点などに注意して利用することが重要である。

ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して**新聞**を読む。

解説→**新聞**を取り上げ、編集の仕方や記事の書き方に注意して読む言語活動である。

新聞は、多数の人々や広い範囲に配布されるメディアとして編集され、社会・経済・政治・産業・国際・教育・文化・スポーツなど多岐にわたる内容が取り上げら

れている。編集に当たっては、活字や図、写真などの大きさや行数、配置などを決める割り付けなどが行われている。記事は、逆三角形の構成と呼ばれることもあるように、結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述されている。また、事件や出来事の**報道**記事だけでなく、社説・コラム・解説などの記事もある。このような特徴を理解し、編集の仕方や記事の書き方に注意して読むことが大切である。

【社会】

○3年、4年

目標→地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。

内容の取扱い→(5)ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

解説→「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を調べるとは、開発、教育、文化、産業などの面で地域の発展に尽くした先人の具体的事例のいずれかを取り上げ、地域の発展に対する先人の願いや工夫・努力、苦心、地域の人々の生活が向上したことなどを具体的に調べることである。ここでは、用水路を開く、藩校や私塾を設ける、**新聞**を発刊する、新たに産業を興すなど、地域の発展に貢献してきた人々が、強い信念をもって情熱を傾け、よりよい生活を求めて努力したことや、これらの先人の働きや苦心によって地域の人々の生活が向上したことなどを取り上げることが考えられる。

○5年

目標→(2) 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。

内容の取扱い→(4) 我が国の情報産業や情報化した社会の様子について次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

解説→「我が国の情報産業」とは、多種多様な情報を収集し、選択・加工して提供している放送、**新聞**などのマスメディアや、インターネットなどの情報ネットワークを形成して情報を文字、音声、映像などで瞬時に伝えるサービスを提供している産業を指している。「情報化した社会の様子」とは、通信技術の発達と高度化によって情報の生産や相互のやりとりが大量・高速・広域化し、教育、文化、産業、日常生活などの様々な場面において大きな変化が見られることを指している。

「調査したり資料を活用したりして調べ」とは、例えば、人々が日常の生活や産業で必要な情報をどのように入手し活用しているのかを調査したり資料を活用したりして調べること、放送、**新聞**などの産業では多種多様な情報を収集し、選択・加工して提供していることを視聴覚教材などを活用して調べること、情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている人から話を聞いたり資料を活

用したりして調べることなどが考えられる。「情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする」とは、情報の有用性や役割、情報の適切な収集・活用、発信や伝達の仕方、情報化のもたらす様々な影響などをもとに、情報化した社会において人々が主体的に生きていくためには情報を有効に活用することが大切であることについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする能力や態度を身に付けることである。

内容の取扱い→ア 放送、**新聞**などの産業と国民生活とのかかわり

解説→情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考える手掛かりとして、放送、**新聞**などのマスメディアを通して情報を提供している産業と国民生活とのかかわりを調べる対象として挙げている。

「放送、**新聞**などの産業と国民生活とのかかわり」を調べるとは、日常の生活や産業における情報手段や情報の利用の様子を取り上げ、放送、**新聞**などの産業と国民生活とのかかわりを具体的に調べることである。ここでは、近年の情報化の進展に伴い、我が国ではテレビやラジオ、**新聞**、電話、コンピュータなどの様々な情報手段が普及していることや、人々は放送や**新聞**などの産業が発信する情報を日常の生活や産業活動の多方面で活用し、様々な影響を受けていることなどを取り上げることが考えられる。

内容の取扱い→(5) アについては、放送、**新聞**などの中から選択して取り上げること。

解説→ここでは放送、**新聞**などの中から一つを選択して取り上げ、そのメディアのもつ働き、国民生活とのかかわりについて具体的に調べられるようにする。

【総合的な学習の時間】

内容の取り扱いについての配慮事項→(6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

解説→総合的な学習の時間における問題の解決や探究活動の過程では、様々な事象について調べたり探したりする学習活動が行われるため、豊富な資料や情報が必要となる。学校図書館やコンピュータ室の図書や資料を充実させ、コンピュータ等の情報機器やネットワークを整備することが望まれる。最新の図書や資料、**新聞**やパンフレットなどを各学年の学習内容に合わせて使いやすいように整理、展示したり、関連する映像教材やデジタルコンテンツを揃えていつでも利用できるようにしたりしておくことによって、調査活動が効果的に行えるようになり、学習を充実させることができる。

内容→(8) 情報に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、情報を収集・整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること。

解説→情報を適切に処理し活用する資質や能力および態度の育成が求められる。情報の取

集にあたっては図書館、インターネット、マスメディアなど必要な情報を得るにはどうすればよいのか、長所、短所は何で、場面に応じてどう使い分けるのかという情報収集法についても実際に体験するなかで習得させたい。

<総合的な学習の時間の学習指導のポイント>

内容→【④まとめ・表現】気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する
解説→情報の整理を行った後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行う。例えば、調査結果をレポートや**新聞**、ポスターにまとめたり、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションとして表現したりすることなどが考えられる。相手を意識して、伝えたいことを論理的に表現することで、自分の考えは一層確かになっていく。

【理科】

○5年

目標→(2) 植物の発芽から結実までの過程、動物の発生や成長、流水の様子、天気の変化を条件、時間、水量、自然災害などに目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性についての見方や考え方を養う。

内容→B 生命・地球 (4) 天気の変化

解説→イ テレビや**新聞**、インターネットを活用し、数日間の天気の様子を調べ、天気はおよそ西から東へ変化していくという規則性があることをとらえるようにする。また、台風の進路についてはこの規則性が当てはまらないことや、台風がもたらす降雨は短時間に多量になることなどをとらえるようにする。指導に当たっては、身近な自然現象としての雲を観察することにより、気象現象に興味・関心をもち、天気を予想することができるようにする。その際、テレビや**新聞**、インターネットから得られる気象情報を活用することが考えられる。

【生活】

指導計画の作成と内容の取扱い→指導計画作成上の配慮事項

内容→(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

解説→内容(8)「生活や出来事の交流」と他の内容との関連を図った単元を構成することにより、それぞれの内容が補い合い支え合って成果を上げることが考えられる。例えば、児童が地域を探検する活動では、地域の特徴やそこで働く人などに目を向け、多くのことに気付く。その中でも、不思議に思ったことや詳しく聞いてみたいことなどを繰り返しインタビューしたり調査したりして、新しい情報や自分だけの情報を収集していく。集めた情報を**新聞**やポスターにまとめたり、パンフレットにしたりして地域の人たちに発信していくことも考えられる。さらには地域についての発

表会に発展することもある。こうした活動の過程においては、手紙や電話、ファックスなどを使って情報のやり取りをすることや、情報を収集したり発信する活動が想定される。

【家庭】

内容→A 家庭生活と家族 (3)「家族や近隣の人々とのかかわり」

ア 家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること。

イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。

解説→例えば、会話や遊びなどの直接的な触れ合いができる場と時間を作り出したり、家族が集まる時に進んでお茶を入れたり、果物や菓子などを供したりすることを計画するなど、一人一人の家庭に応じた工夫ができるように配慮する。家族が直接触れ合うことだけでなく、例えば、手紙で思いを伝えたり、日々の感謝の気持ちを表すために手作りの品にメッセージカードを添えたり、家庭で**新聞**を発行したりするなど、家族がそろわなかったり家族と触れ合う時間が短かったりしても、心豊かな家庭生活を送るための工夫ができることが分かるようにする。

【道徳】

内容→3 道徳の時間に生かす指導方法の工夫 (7) 説話の工夫

解説→説話とは教師の体験や願い、あることについての感じ方や考え方を語ったり、日常の生活問題、**新聞**、雑誌、テレビなどで取り上げられた問題などを盛り込んで話したりすることによって、ねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにしようとするものである。教師が意図をもってまとまった話をするのは、児童が思考を一層深めたり、考えを整理したりするのに効果的である。

内容→3 魅力的な教材の開発や活用

解説→教材の開発に当たっては、日常から**新聞**や書籍、身近なできごと等に強い関心をもつとともに、柔軟な発想をもち、教材を広く求める姿勢をもつことが大切である。具体的には、先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材として、児童が感動を覚えるような教材の発掘に努めることが求められる。

その他の教育活動における指導→(「第3章道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」)

解説→学校や学級において道徳的な学習情報に関する展示を工夫することも望まれる。例えば、学校や学級の目標やきまりに関する掲示、児童の考えや意見に関する掲示、道徳の学習内容に関する資料等の掲示など様々な工夫が考えられる。音楽、造形など美的な情報を養うことを主とした環境、社会的な問題への関心を高める**報道**資料を生かした環境、自己の生き方と重ねて考えを深めることができる先人のメッセージなどを生かした環境なども、児童の道徳性をはぐくむ環境として効果的である。

以上